一般に，学校で口をきかない子供は，不安感や緊張感から生ずる自己防衛機制が強く働いているのが特徴である。従って，援助指導にあたっては，最初から口をきかせようと意図して，あれこれと迫っていく方法は効果がなく，かえって本人を窮地に追いこみかねない。そこで，指導にあたっては，不安感や緊張感をやわらげることを中心に，

㋐　口をきかない原因を取り除いてやること　㋑　集団場面に参加するための耐性や自信を身につけさせることが考えられる。

いずれにしろ，場面緘黙児の場合は，学校における集団生活場面に問題が生じているので，学級における担任の役割が重要になってこよう。言葉の応答を期待することよりも，本人との信頼関係を深め，情緒の安定を図ることを重点に，じっくり取り組むことが指導の基本になる。

H子の場合も，口をきかせようと単刀直入にかかわるのではなく，むしろ，無言のままでよいから，学級の中に自然にとけこめるような配慮が，指導のポイントになると考えられる。

② 援助指導プラン

具体的に，援助指導にあたっては，

㋐　遊戯療法によって表現活動を助長し，発語の効用や表情表出の喜びを身につけさせる。

㋑　親とのカウンセリングを通して，子供との接し方を改善し，対人接触の場を拡大しながら社会性の育成に努めさせる。

㋒　表1のような援助指導プランを学級担任に依頼し，実践してもらうことによって集団活動への適応をはかる。

のような三つのプランによって援助することを試みた。特に，㋒のプランは，援助活動に効果を発揮することができた。なお，場面緘黙児には，前述のように共通した行動特性がみられるので，表1の援助指導プランは，多くの場面緘黙児の指導に適用できると思われるので参考に供したい。

段階	ねらい	教師の働きかけ	留意事項
① ラポート形成	心の安定をはかり教師との関係を深める	1．視線があったら笑顔をみせ，やさしく見守る。 2．ことばをかけながらやさしい表情で接する。 ・頭をなでる。 ・背中や肩にさわる。	○ラポートをつくることが第一のねらいであるから，あせらずゆっくり子どもの心に接近する。 ○子どもに遊んでもらうつもりで相手をする。
② 対人関係になれる。	・少人数の子どもたちと関係が結べるようにする。	・手をつないで歩く 1．一緒に行動する機会を多くする。 ・仕事（清掃・給食当番など） ・遊び（休み時間，業間運動）体育・図工…… 2．特定の子と遊ばせる（グループ） ・放課後教室で遊ぶ。 ・一たん帰宅してから再登校させる。	○一緒に遊び，一緒に仕事をすることを通して子どもの心にふれ，気持ちに共感し意志表示ができるところまで努力する。 ○明るい子，世話好きな子を2～3人選び行動をともにさせる。 ○リラックスした状態で登校できるようになれさせる。
③ 行動表現	・指示によって簡単な行動表現ができる。	1．仕事を一つ受け持たせ毎日実行させる。 2．仲よしグループの人数をふやす。	○話さなくてもできるような仕事，たとえば，配る，集めるのような仕事や花に水をやる，黒板ふきをきれいにするなどの仕事を分担させる。 ○グループの人数をふやし，学級という大きな集団への適応を可能にし，少しずつ対話の機会をもたせる。
④ 言語表現	・簡単な言語表現（あいさつ）ができるようにする。	1．話しかけ(声かけ)を多くする。 ・「はい」「いいえ」 ・あいさつ 2．グループの子どもたちからの働きかけをもたせる。	○口をきいたこと自体はほめない。特に「よく言えたね」とは絶対に言わない。 ○集団の中でも「おはよう」「さようなら」が言えるチャンスを作る。
	・人の前で簡単な言語活動ができる。	3．係活動や日直の司会をさせる。	○必ず答えられる内容のものを準備し，励ましながら成功感をもたせる。

4．おわりに

昨年4月～12月までの援助指導であったが，H子の表情にみちがえるような変容がみられた。学習時は，みんなと一緒に取り組めるようになったし，休み時間には友人と楽しく遊ぶまでにいたっている。すっかり不安や緊張感から解放されて，学級の中で自由に言語表現ができるようにもなったのである。

H子の指導にあたっては，遊戯療法や親とのカウンセリング等も実施したが，それ以上に，学校生活への適応を考えると，大事なことは，子供に接する教師の態度が重要な役目を果たしていると思われる。それは，教師のあり方しだいで，心を開くことも，閉ざすこともあり，担任教師が教育活動の中で，子供へどんな働きかけをするかによって，その治療的効果が期待できるからである。